

これからの研究開発、国際標準化、成果展開等についての考察

株式会社富士通研究所 佐々木繁

■基本的な考え方

大局的に鑑みると、多くの日本企業は、従前、「国内志向」、すなわち、まずは国内で研究開発、事業化、その後にグローバル市場展開するプロセスが主流であり、技術開発力は高いが、諸外国に比べ、産業界の国際競争力がスピード感を持って発揮できていない。そこで、プロセスを改め、まずは「グローバル視点でのありたい姿」を描き、社会実装を展開する必要がある。この観点で、研究開発、国際標準化、成果展開、人材育成等のスキーム作りを政府及び国研に牽引して頂きたい。

■提案

現在走っている国プロテーマと国研での研究テーマを、グローバル視点で①影響度、②社会実装の姿、③産業競争力の可能性について、再アセスメントしてみてもどうか？その結果を持って、国際標準化や知財創出、自前主義からの脱却（オープンイノベーション戦略）等を再検討してみてもどうか？（良い事例： 100G光ネットワークプロジェクト、GSMなど）

これにより、第5期科学技術基本計画への提言を議論したい。